



今月のミニ展示コーナー 解説シート

【展示のテーマ】 災害と復興の9世紀

—新指定文化財 「貞観十七年」銘土器の時代—

いなりだいいせき かすさこくふ
稲荷台遺跡からは、上総国府に關係する祭りに使った品物がたくさん見つっています。

そのころ東国を襲った様々な災害と、何か關係があるのでしょうか。

【稲荷台遺跡について】 遺跡は国道 297 号線に接する市原台地上にあります。国分寺台地区土地区画整理のため、昭和 53 年から昭和 55 年にかけて発掘調査を行い、9 世紀から 10 世紀にかけての建物群と、多くの貴重な土器や陶器が見つかりました。四面に廂しめん ひさしを回した格式高い掘立柱建物を中心にすること、その周りで特殊な祭りが盛んに行われていたこと、高級品の緑釉陶器りよくゆうとうきをたくさん使っていることなどから、普通のムラでないことは明らかで、平安時代の上総国府と深い關係にある重要な施設と考えられています。

特に祭りについては、まぼろしの上総国府の実像を探る上で注目されています。

【緑釉陶器しめんびさし】 四面廂建物の周りから 2,000 点以上が見つっています。多くが細かく砕かれた状態で、何らかの祭りに使われたと考えられます。

【37 号住居跡出土土器一括じゅうきよあとしゆつとど きいっかつ】 平成 26 年 12 月 18 日付けで市の文化財に指定されました。竪穴住居たてあなじゅうきよの中で焚火をし、まとめて捨てられていました。火を使った祭りに捧げた器ささ うつわでしょうか。うち 1 点には「月」「上」「酒」「名」「水」「鳥」「謹」などの文字が書かれています。

るほか、「貞観十七年」
(875) の銘があり、祭りを行った日時を知ることができます。このことから、土器年代の研究にも大きく貢献しています。

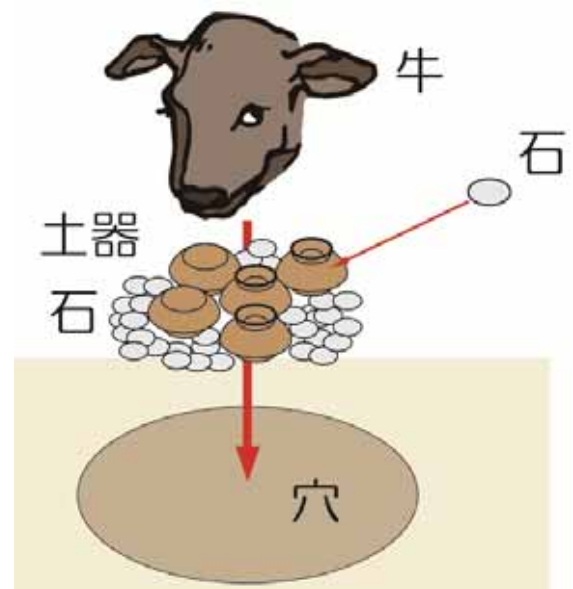


「貞観十七年」銘土器



市指定文化財 37号住居跡出土土器一括（「貞観十七年」銘土器は最下中央）

【^{いけにえ}生贄を捧げる】このほか、生贄を捧げる祭りも行われていました。鹿、猪、牛を屠殺し、お供えしたのでしょうか。その後、頭部を土器の上に乗せ、埋めています。



牛の頭部を埋めた例（7号集石遺構 土器を入れ子状に重ね、中に石を入れていました）

【**動乱の時代背景**】これらの様々な祭りは、9世紀後半に多く行われています。当時の東国は、大地震や台風、^{ききん}飢饉などの天災や、反乱などの人災が立て続けに起こる激動の時代でした。特に貞観期（859～877）が^{けんちよ}顕著で、上総国でも^{きとう}防災祈禱や^{ふしゆうきやうどう}俘囚教導などの対策を講じています。稻荷台遺跡の祭りも、こうした政策や世相に関係するのかもしれませんが。